

ホクコーロングキック®フロアブル

■種類名	クロメプロップ・フェントラザミド・ベンスルフロンメチル粒剤
■有効成分	クロメプロップ-----9.0% フェントラザミド-----6.0% ベンスルフロンメチル-----1.4%
■PRTR法指定物質	フェントラザミド [第1種] -----6.0%

■登録番号	第22240号
■毒性	普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年	2008.09.10
■性状	類白色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限	4年
■包装	500ml x 20本、2ℓ x 6本

【特長】

- 田植同時処理可能な一発処理除草剤。水稻に対する安全性が高い。
- 3つの成分の働きにより、ノビエをはじめとする一年生雑草から多年生雑草まで幅広い雑草の発生を長期間抑制する。
- フェントラザミドとクロメプロップの相互作用で、SU抵抗性雑草に高い効果を発揮する。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ(東北) ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ オモダカ(東北)、クログワイ(東北) シズイ(東北) アオミドロ・藻類による表層はく離(北海道)	移植時	砂壤土 ~植土	500 ml /10a	1回	田植同時 散布機 で施用	北海道 東北
		移植直後~ L ¹ E 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで				原液湛水 散布	

クロメプロップを含む農薬の総使用回数 2回以内	フェントラザミドを含む農薬の総使用回数 1回	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数 2回以内
----------------------------	---------------------------	-------------------------------

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に併せ秤量し、使いきることを。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、シズイの防除は、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- 本剤散布後、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 苗の植え付けが均一となるように整地や代かきはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特に丁寧に行うこと。
- 下記のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上) ◆ 軟弱な苗を移植した水田 ◆ 極端な浅植の水田
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、効果不足の恐れがあるので使用を避けること。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。